

議 事 録

令和6年度 第1回北栄町地域福祉推進計画推進委員会	
日 時	令和6年5月22日（水）14時00分～16時30分
場 所	北栄町農村環境改善センター 2階 大会議室
出席者 （委員）	長曾我部・山本・森田・村岡・松村・中井・遠藤・田村・田中・ （行政）前田健康推進課長・渡辺生涯学習課長
（事務局）	（町）小澤福祉課長・杉川室長・池田センター長・松嶋室長・菱井室長 （社協）金山局長・前田係長・柴山主任

○主な意見を抜粋したもの

1：開 会	司会／進行：小澤福祉課長	説明・意見者
2：あいさつ	委員長あいさつ	
3：議 事		
※これ以降の司会は、長曾我部委員長		
(1) 令和6年度北栄町地域福祉推進計画の目標設定について		
それぞれの計画の目標設定について説明し、ご意見ご質問をいただいた。		
① 北栄町地域福祉推進計画（本計画） （資料1）		事務局：菱井 社協：前田
I	○QRシールとは何か？	○田中委員
	⇒洋服などに付けるバーコードのようなシールで、スマホで情報を読み取ると行方不明者の家族と連絡できる仕組みになっている。	池田センター長
	○ゲートキーパーとは何か？	○長曾我部委員長
	⇒自死の危険がある人を見守り支援に繋げる人のことである。民生児童委員協議会や支援センター等を想定し研修会を行っている。	社協：前田係長
	⇒QRシールに関してはこれから説明会を開催する。報道機関にも取材要請し、広く情報提供したいと考えている。	福祉課：小澤課長
	○部屋の電気で見守りをするのは、どういうものなのか？	○村岡委員
	⇒通信機能付き電灯に変えると、24時間無点灯の場合は家族にメールが行くという仕組みである。高齢者の見守りということで、半年間はお試し期間で町から補助金を出す。これからPRしていく。	福祉課：小澤課長
II	○`食を通じた孤立しがちな人の集いの場、とは？	○田中委員
	⇒個食になりそうな人を対象に、食事をテーマとした集いの場を大栄・北条各地区で開催したい。まずは実施し、成果を検証したい。	福祉課：松嶋室長
	○災害時支援個別計画について、家から出られない難病患者の支援体制はどうなっているか？	○森田委員
	⇒地域全体の支え愛マップを作成してきたが、このマップと連動しながら更に個別に誰がどのように支援するかを計画したい。まずは自治会長会で支え愛マップについて研修し、自治会主体で取り組んでもら	福祉課：小澤課長

	えるようにする。	
	○大きな地域は一枚のマップに情報を落とし込むのは大変だと思う。マップではなく一覧表にし、情報共有するのがよいと思う。	山本委員
	○タクシー券は実質値上げということか？	山本委員
	⇒昨年末に県内のタクシー料金が値上げしたことに伴い、値上げせざるを得なかった。ただし距離に応じて出す補助金は額を増やしている。この制度を長く続けるための措置なので、ご理解いただきたい。	福祉課：小澤課長
	○制度の狭間にある支援の必要な人は、具体的にはどのように把握しているのか？	○山本委員
	⇒世帯訪問事業または福祉サービス事業所や民生委員からの情報提供などで把握している。今年度は更に、8050問題やヤングケアラーの状況などを実態調査したい。また、障がい児から障がい者への移行時に制度が繋がるよう、関係課と協議していきたい。	福祉課：松嶋室長
	○実態調査の結果を情報共有してもらいたい。	○山本委員
	⇒そのようにする。	福祉課：松嶋室長
III	○農家と連携した参加の場とは、どういうものか？	○中井委員
	⇒既存のサービスを利用しにくい人たちが、農業を通して少しでも参加活動できるような場が作れないかということで、法人と協議している。農家とタイアップするなどして進めていきたい。	福祉課：松嶋室長
	○健診の申込方法が変わったがどうなるのか？	○森田委員
	⇒より多くの方に受診してもらえよう、今年度から受診の意向調査を廃止し、個人ごとに受診できる検査を通知するようにした。また電話だけではなくインターネットでも予約できるようにした。	健康推進課：前田課長
	○リハビリテーション専門員の派遣事業は町の予算ですか？	○遠藤委員
	⇒その通りである。ぜひ活用いただきたい。	包括：池田センター長
	○再検査受診率が低いように思う。	○村岡委員
	⇒おっしゃる通り、なかなか再検査受診に繋がっていないのが現状だ。対象者には再度通知を出し、再検査を促したい。	健康推進課：前田課長
② 重層的支援体制整備事業実施計画（資料2）		福祉課：松嶋室長
(2)	○規格外の製品を他町に進呈しているが、本町でも活用できたらよい。食を提供できる仕組みをぜひ構築してほしい。	○中井委員
	⇒規格外だが活用できるものは他にもたくさんあると思うので、検討したい。	福祉課：松嶋室長
	○鳥取大学では学生団体が事業者から直接規格外製品を受け取り、拠点で配布する仕組みを構築している。町でもぜひ進めてほしい。	○長曾我部委員長
	⇒生鮮食品は集配の量が一定しない上、消費期限があるので難しい。	福祉課：松嶋室長
	○その都度、集配状況が分かる仕組みができればよい。 ○SNS等を活用し取り組みの啓発を行うとあるが、去年の「町づくりアンケート」で、SNSの利用状況について詳細に聞いているので、ぜひ参考にしてほしい。	○長曾我部委員長

(3)	○支え愛連絡会の開催目標が15自治会とあるが、実態はどうか？	○山本委員
	⇒昨年度の開催実績は13自治会だが、定期的に行っている自治会が少ないのが現状だ。定期的に行ってもらえるようにしたい。	社協：前田係長
	○支え愛マップ作りの中でも連絡会は開催できる。一年に一回は必ず開催するように強く働きかけてはどうか？	○山本委員
	⇒社協からの活動補助金の助成例として、支え愛連絡会も記載し、自治会長や民生委員にしっかり伝えていきたい。	社協：前田係長
	○役員は大変なので開催に踏み切れない気持ちも分かる。毎月定期的に行っている他の会合と同時開催すればよいのではないか。	○長曾我部委員長
	⇒開催の工夫として伝える。	社協：前田係長
	○支え愛連絡会では個人情報も出てくるので、役員会などの小さな会合との同時開催がよいと思う。研修の際に自治会長にも話をする。	○山本委員
	○各自治会内で、世帯ごとに具体的に必要な人員や物資を割り出し、情報共有してもらいたい。停電時に電源が必要な医療的ケア児もいるので、その点も把握してほしい。マップ作成は必要なことなので、行政からもっと厳しく働きかけてもよいと思う。	○中井委員
	⇒自治会に推進していきたい。医療的ケア児に関しても、今年度は優先的に個別支援計画を進めるよう呼び掛けていきたい。	福祉課：小澤課長
	○当事者だけで計画を進めていくのは難しい。広がりが必要だ。	○中井委員
	⇒そういう視点も大事にしながら取り組んでいきたい。	福祉課：小澤課長
(3)	○精神障がいのあるケースに関する事例検討会は行政関係者であるのか？	○遠藤委員
	⇒行政だけではなく、色々な関係機関にも集まってもらい、事例検討会をしている。毎年開催しているが、今年度は精神障がい者の支援に関する検討ができた。	福祉課：松嶋室長
	○SNSの活用する項目は何か？	○山本委員
	⇒具体的な項目についてはこれから検討していくが、例えば活動中のサークル虹色カフェなどの地域活動情報を入れたいと考えている。提案があればお願いしたい。	福祉課：松嶋室長
	○ボランティア募集の情報などを入れたらどうか。	○山本委員
	⇒検討する。	福祉課：松嶋室長
③ 成年後見制度利用促進計画 (資料3)		事務局：菱井
	○町民に対し広報や研修を実施するとあるが、どの程度の頻度で行うのか？そもそも町民がこの制度を認知しているか疑問である。	○田中委員
	⇒広報に関しては町報に掲載する。研修に関しては中核機関が開催する基礎研修会などをご案内する。言われた通り制度自体が浸透していないので、様々な媒体を使い身近に感じられるよう進めていきたい。	事務局：菱井
	○後見制度の需要と供給のバランスはどうなっているか？	○田中委員
	⇒専門後見人はぎりぎりの状態なので、これからは担い手の養成なども課題になってくる。	事務局：菱井

(2) 北栄町地域福祉推進計画の改定に係る協議について		
	○皆さんの任期は今月末までであるが、できれば引き続き委員として改定計画に参加いただきたい。	事務局：菱井
	⇒この5年間で高齢化が更に進んでいる実感がある。男性の高齢独居世帯も増加しており自治会自体がどうなっていくのか心配である。計画の際にそういう視点も入れてはどうか？	○森田委員
	⇒その通りだ。	○長曾我部委員長
	○隣保館では生活相談もしている。今後は重層計画と連携し、相談機関としての機能向上を図りたい。	生涯学習課：渡辺課長
	⇒実際に隣保館を通して福祉課で相談を受け、連携しながら対応を進めることもある。更に連携を進めて一緒にやっていきたい。	福祉課：松嶋室長
	○ボランティアも含め、サービスをする側の担い手不足が深刻だと思う。	○山本委員
	○今日の資料にしても、会議名や団体名が多過ぎて分かりにくい。分かる範囲で説明して、もっと分かりやすく表記してほしい。	○中井委員
	○プラットフォームという専門用語が分からなかった。	○遠藤委員
	⇒会議資料や住民への広報で難しい用語は使用しないようにする。もっと分かりやすいネーミングと表記で対応したい。	福祉課：松嶋室長
	○どんなによい内容でも住民に伝わらなければ意味がないので、優しい言葉で分かりやすくした方がよい。そしてその内容をいかに周知徹底していくかが大事だ。	○田村委員
	⇒以前の計画資料はすごろくを使って分かりやすく説明していた。分かりやすく、よいアイデアだったと思う。どんな施策でも発信が課題になる。	○長曾我部委員長
	○以前は町放送を朝晩2回していたと思うが、復活はできないか？ ○アンケート調査結果で、男性の集える場所が少ないという意見があったが、森田委員の言われた男性独居世帯の増加と関係していると思う。行政としても対策を考えてほしい。 ○サロン実施率が増加したが、まだまだ未実施自治会もある。サロンと「こけないからだ体操」をセットにして進めてはどうか。高齢者が元気になれば介護保険料も下がると思う。	○田中委員
	⇒町放送に関しては、再生すればいつでも聞くことができるので活用してほしい。 ⇒男性の集える場に関しては、行政でも社協でも課題になっている。これまでも男性も参加しやすい講座などを企画実践してきたが、今後も色々と計画に盛り込んでいきたい。 ⇒サロンや「こけないからだ体操」教室など、健康に繋がる場が増えれば介護保険料が下がることは間違いない。今後も推進していく。	福祉課：小澤課長

	<p>計画を熟知しているはずの委員でも分からない難しい言葉がある。これからもご意見やアイデアを出していただきたい。</p> <p>○次回委員会、パブコメはいつ頃か？</p>	○長曾我部委員長
	⇒委員会は11月、パブコメは12月～1月を予定している。	福祉課：菱井室長
	○次回委員会でもたくさんの貴重な意見が出ると思うが、パブコメまでの一カ月でまとめることができるのか？	○長曾我部委員長
	⇒次回委員会で素案を提示するが、その際に計画修正するほどの意見があれば追加で委員会を開催し最終案をパブコメする。	福祉課：小澤課長
	○情報発信のことも踏まえ、今時点の意見を記載してほしい。	○長曾我部委員長
	○パブコメ時期を勘違いしていたので2月に訂正する。次回委員会での意見もきちんと反映させたい。	福祉課：菱井室長
	<p>○支援のすそ野を広げ、いかに担い手を増やしていくか。これからの情報発信が非常に大事になってくる。</p> <p>○優先順位はないと思うが、基本目標Ⅱ「安心して暮らせるしくみづくり」が最優先だと思うので、Ⅰ「地域で支えあうしくみづくり」と順番を逆にした方がよいのではないか？</p> <p>○連絡協議会やネットワークが増えているが、最終的にどこにどんな情報が集約されているかが分からない。</p> <p>○支援者・受援者の立場は支援内容によって変わることもある。全ての人が決して他人事ではないという認識が必要だと感じた。全員でより良い計画を作っていきたい。</p>	○長曾我部委員長
4：連絡事項		
(1) 次回委員会について		事務局：菱井
次回委員会は11月中旬に開催し、改定についての協議を行う予定である。		
5：閉会		
福祉課・小澤課長の挨拶で終了。		

【その他、意見記入用紙の内容】

- ・就労支援について、5月の連休に働きたい方があったが遠くには行けないので、北栄町内の短時間労働の情報提供があればと思う。
- ・成年後見人の決まり方など、一般には流れが浸透していないと感じる。また、身寄りのない方の死後の取扱いについて、町の決め事なども知ることが出来れば。
- ・65歳未満の介護保険外の方で生活の場に困るケースがあると聞く。町独自の共生ホームなどあれば。
- ・倉吉病院など専門医との連携も重要と感じる。
- ・Ⅱ-(4)災害時の連携の強化：自治会ごとの要支援者リストは支え愛マップを通して作成することも大切だが、規模の大きな自治会は大変なので町や他機関の情報を合わせたものを示せれば効率的と感じる。個人情報を出せないとしても要支援者の割合など示して意識づけすることで、支え愛マップづくりにつなげられれば。

- ・Ⅱ-(6)支援が届きにくい人への対応：孤立・孤食の改善を目的とした事業だとしても参加に抵抗のある方もあると思うので、イベント名の表現には留意したほうが良い。
- ・重層(地域づくり事業)：支え愛連絡会の自治会数が少ないのは任期の短さによる取組みづらさもあるのでは。組織体制・構造を踏まえた促進の提案があればと感じる。